

8. 白書活動って何でしょう

宝塚の学校園所では毎年白書活動が行われ、市内全体でも白書研究会が開催されています。その歴史と意義をまとめてみましょう。

その1 宝塚市の白書活動のはじまりは？

宝塚市における1970年代の教育現場では、地区出身の子どもたち、在日の子どもたち、障がいのある子どもたちなど、当時差別される側の子どもたちの中には家の手伝いで通学できない、勉強がついていけない、行きたくても学費問題で高校に進学できないなどの苦しみを背負っている子どもたちがクラスで何人もいました。中学校では問題行動が多発しいわゆる「荒れ」の時代でした。小学校でも「学級崩壊」がはじまります。そんな教育現場の立て直しの一つの実践が白書活動でした。白書活動はクラスで核になる子に視点を合わせ、クラスの仲間づくりを進め、集団を変革させていく活動でした。先生自身も書くことで見えなかったものを見つけ、人権意識を高めてきました。

その2 宝塚市の白書活動はいつから、どんな視点で行われていますか？

(1) 宝塚市の白書活動は1974（昭和49）年度の宝塚市同和教育協議会の総会で、推進する重点目標の一つとして決定された教育活動です。そのときの基本姿勢は次の3点でした。

- ① 同和教育の活動点検により課題解決をめざす。
- ② 白書活動そのものが教育活動である。
- ③ 白書活動の中で差別の現実に学ぶ。

(2) 1980（昭和55）年度には活動の方針に照らし合わせて5つの視点を設定しました。

- ① 差別の実態が浮き彫りにされているか。
- ② 差別によって、その子の奪われているものは何か。
- ③ 奪われたものを、どのように取り戻したか。
- ④ その子とのかかわりの中で、教師になにがみえ、教師が何を学んだか。
- ⑤ その子をはじめ、周囲の人々の人権意識は高まったか。

(3) 1983（昭和58）年度には視点を1つ加え6つの視点で白書活動を進めました。

- ① 差別の実態を浮き彫りにしているか。
- ② 差別によって、その子の奪われているものは何か。
- ③ 奪われたものを取り戻すために、どのような取り組みをしているか。
- ④ すべての子どもに人権意識をどう育てたか。
- ⑤ すべての子どもに学ぶ喜びをどう育てたか。
- ⑥ 子どもとのかかわりのなかで、教師自身に何が見え、何を学びとったか。

(4) 2016（平成28）年度には6つの視点を現実の教育実践に合わせるために次のように改定して現在に至っています。

- ① 子どものおかれている差別の実態や現状をどのようにとらえているか。
- ② 差別の実態や現状は子どもを取り巻く何に原因があるか。
- ③ その子の成長のために、どのような具体的教育（保育）実践しているか。
- ④ その子に関係する他の教職員（保育士）や支援者とどのように連携しているか。
- ⑤ 学級みんなの人権意識を高め、共に学ぶ喜びと生きるための学力をどのように育てたか。
- ⑥ 子どもの関わりの中で、教職員（保育士）自身に何が見え、何を学び取れたか。

その3 白書活動で得られるものは何ですか？

- ① 本気で取り組みれば子どもがよく見えて、どの子もかけがえのない子になってきます。
- ② 書くことで実践を振り返ることができ、忘れかけていた教育愛が目覚めてきます。
- ③ 実践を繰り返すことで子どもやクラスが成長し、保護者も変化していきます。
- ④ そして、知らず知らずのうちに自分自身の人権感覚が豊かになっていきます。